

## 補正予算

2026年  
町田市議会

第2回定例会

『学校統廃合と中心市街地再開発』優先やめ  
緊急に、市民生活の支援に使うべき！町田駅周辺再開発のD地区・  
森野住宅周辺地区留保財源8億円の98%  
「開発と学校統合」に支出

稲垣市政による補正予算の内容が問われました。留保財源である個人市民税収入の8億円のうち、中心市街地まわりの推進事業など将来の開発に6億5千万円、新たな学校づく

町田市議会第2回定例会が、6月1日～29日までの日程で行われました。市長が提案した一般会計補正予算（19億6千4百万円）について、共産党市議団は、学校統廃合と大型開発優先であり、市民の暮らしを守る予算に変えるべきと討論を行い、反対。下水道使用料を35%値上げする条例改正にも共産党は反対しましたが、多数で可決しました。また、共産党が提出した国への『物価高騰・資材不足から暮らしと営業を守るための緊急対策を求める意見書』は多数で可決しました。

『物価高騰・資材不足から暮らしと営業を守るための緊急対策を求める意見書』（共産党提出）が多数で可決

くり推進事業には1億3千万円と、留保財源の98%が支出されました。

内訳が今議会で「条例」が可決した「中心市街地開発推進基金」に5億円を積み立て、町田駅周辺再開発のD地区・森野住宅周辺地区の開発事業に1億円、多摩都市モノレール基金積立金に5千万円を支出。また、この間の学校統廃合見直しを求める市民の声を向けたまま、第二期計画である「南第三小・南第四小」と「小山田小・小山田南小」「町田第三中・山崎中」の統合新設校基本計画・基本設計の予算が組まれました。

市民の暮らしと営業守り  
統廃合の通学、学童対策を

共産党の細野りゅう子市議は、稲垣市長の施政方針に対する代表質疑で、中心市街地再開発への財政投入をやめて、市民の暮らしと営業を守ることが優先すべきと、物価高などで困窮する市民の暮らしや営業への支援を求めました。市長は、未来への投資は必要であり、中心市街地開

発基金に5年間で25億円を積み立てると答弁。通学負担や大規模学童保育など問題を抱える学校統廃合の次期計画はやめるべきだとの質疑に、「第2期計画」をしっかりと進めると答えました。野津田公園や芹ヶ谷公園の樹木を伐採する公共事業の見直しや「せりがや会館」閉鎖の撤回を要求しました。

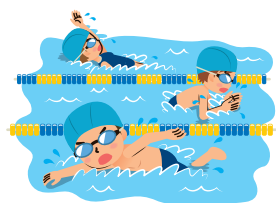
芹ヶ谷公園「芸術の杜計画」は  
市民とともにゼロから再検討を

稲垣市長は、3月の予算から芹ヶ谷公園「芸術の杜関連予算を削除し、5月、市民の意見を聞く機会を設けましたが、検討内容が問われています。施政方針で市長は、「多様な文化芸術の活動や自然を体験しながら学び、楽しむことができる体験型の公園として、施設の配備計画や規模全体デザインを再検討する」と述べています。これでは、市民の理解が得られていない前「計画」のコンセプトと同じです。市民は、公園、美術館、市立博物館本来の在り方の原点に立ち返り、市民参画で時間をかけて再検討することを望んでいます。

「市政運営で最も大切だと考えているのは、市民の皆さまの声をしっかりと受け止め、その声を市政に反映する、真摯な姿勢を持つこと」（稲垣市長の施政方針）を、市長は、体現すべきです。

公営プールは町田市で  
1ヶ所のみに?!

6月議会で、町田第一中、鶴川中、南中で行っている開放プール事業について2028年3月末をもって、事業を終了すると行政報告がありました。市内での公営プールは、町田市立室内プール1ヶ所のみとなってしまいます。文教社会常任委員会では、委員全員から長時間にわたって質疑が出されました。夏休みに子どもたちが行ける身近なプールがなくなってしまうこと、「するスポーツ」を



掲げながら、市民の水泳の機会を減らしてしまう計画はとんでもありません。皆さんの声をぜひお寄せください。

町田市の  
下水道料金 都内で一番高額に

下水道料金の引き上げの条例改定について、町田市が行った市民意見募集では、利用量が少ない単身世帯の値上げ率が高いことへの疑問、値上げをやめてほしいという意見が多く寄せられていました。町田市の下水道料金は、都内（23区・26市）で一番高くなり、例えば府中市とは単身世帯で約3倍の違いになります。家庭だけでなく、事業者や大学なども大幅な値上げです。

日本共産党市議団は、物価高騰のもとで命に関わる公共料金の引き上げは行わないことを求め、改定に反対討論を行いました。町田市は、5年後さらに11%の値上げを行うとしています。党市議団は、一般会計からの繰入れを以前の水準に戻すこと、国や都に補助対象や補助額の拡充を求めています。

